

平成22年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

平成23年9月

福井県教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	3
	1 組織	3
	2 課別決算額調	4
IV	平成22年度福井県教育委員会の活動状況	5
	1 教育委員会の会議開催等の状況	5
	2 教育委員の活動状況	9
	3 審議会等審議状況	12
	4 教育委員会関係の許認可の状況	13
	5 公立高等学校入学者選抜学力検査（平成23年3月実施）結果の状況	15
	6 平成22年度公立学校教員採用選考試験の実施状況	16
	7 研修の実施状況	18
	8 福井大学教職大学院との連携の状況	19
V	平成22年度の教育関係施策の取組実績	20
	1 基本的方向	20
	2 実施結果の概要	20
	3 施策項目に係る結果について	21
	4 目標数値の進捗状況	34
VI	有識者からの意見	36

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教行法」という。）の改正により、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

[参 考]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）（平成20年4月1日改正法施行）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

福井県では、平成16年度から「政策推進マネジメントシステム」を構築し、政策を「分析（アセスメント：Assessment）」し、「計画（プラン：Plan）」をたて、「実施（ドゥ：Do）」し、それを「評価（シー：See）」しています。そして、この手続きを循環させる「APDS（エピソード）サイクル」の運用により、実施事業の評価結果等を基にした現状分析をサイクル化することで、改善志向型マネジメントの確立を目指しています。

このシステムの下、教育委員会においても、年度当初に主要施策と目標を公表するとともに、その達成状況について施策の取組結果を取りまとめ、年度終了後に、広く県民に報告を公表する政策推進マネジメントを行っています。

< 22年度施策取組目標 >（「福井新元気宣言」推進に係る平成22年度の「政策合意」）

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/goui2010/2010goui.html>

< 22年度取組結果 >（平成22年度「福井新元気宣言」推進に係る政策合意の達成状況）

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/seisakutassei22.html>

本報告書「平成22年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下、「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、県教育委員会が定めた「平成22年度基本方針」に掲げた主要施策の取組結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書を県民の皆様にご覧いただき、県の教育行政についてのご意見やご要望として今後の新たな教育関連施策に生かしていきたいと考えています。

II 点検・評価について

1 対象期間

平成22年度（平成22年4月～平成23年3月）

2 点検・評価方法

(1) 点検・評価報告書の作成

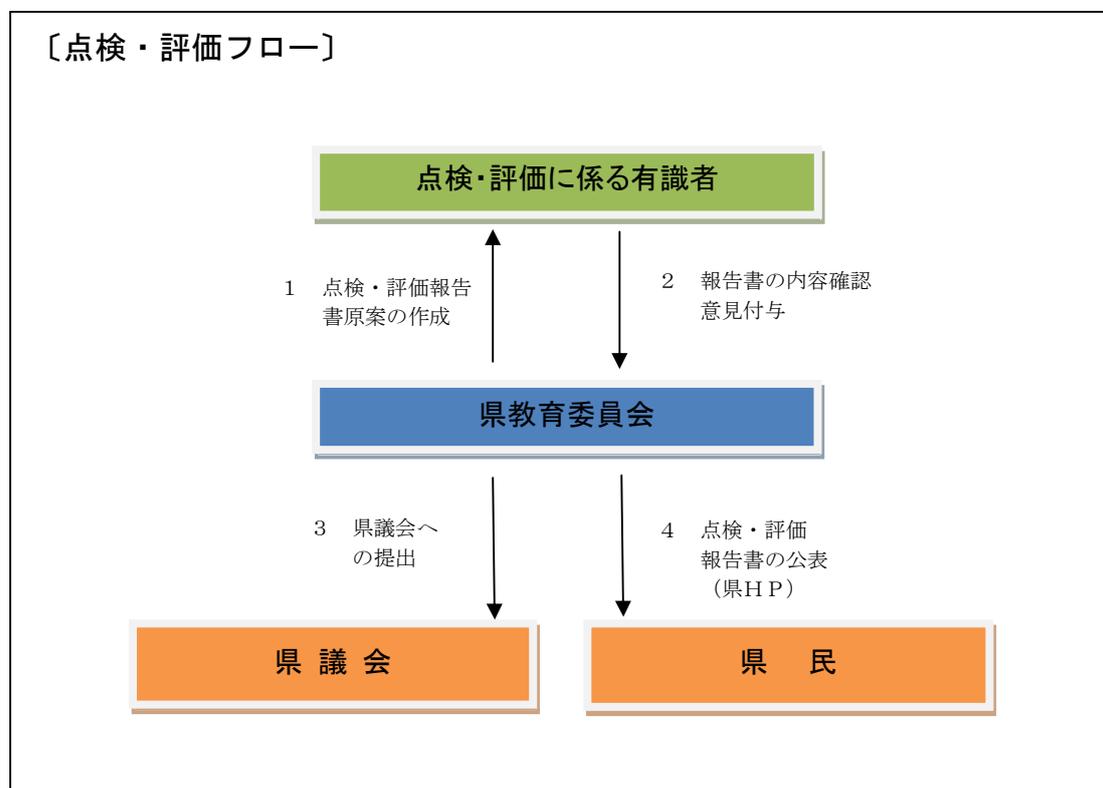
- ・ 教育委員会において点検・評価報告書案を作成

(2) 点検・評価報告書の確認、審査

- ・ 有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および審査

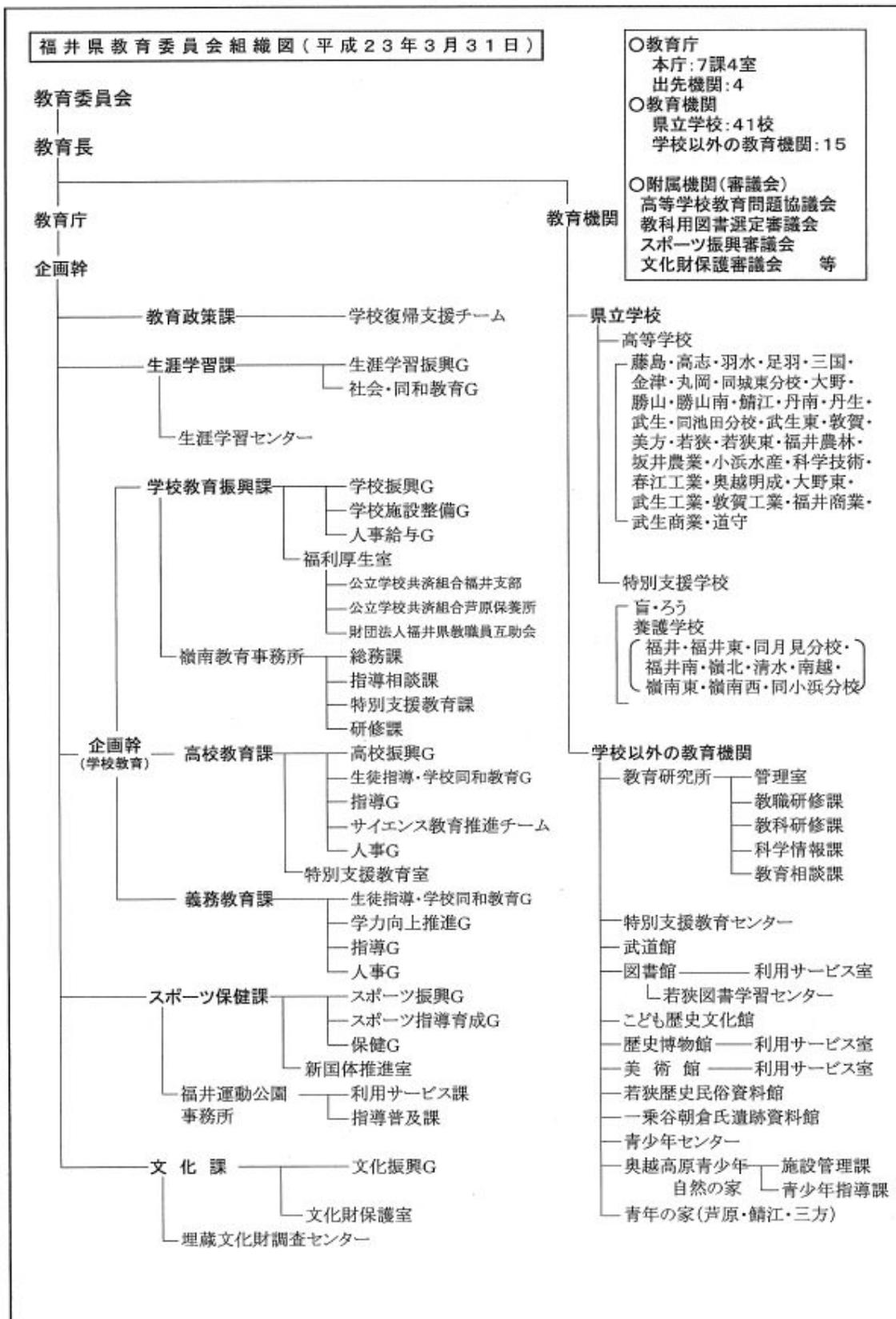
(3) 点検・評価結果の公表

- ・ 点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表



III 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	C/A	C/B
教育政策課	15,759	15,721	15,721	99.8	100.0
生涯学習課	81,087	50,023	50,023	61.7	100.0
学校教育振興課	16,991,438	16,583,363	16,580,355	97.6	99.9
高校教育課	273,806	274,287	257,502	94.0	93.9
義務教育課	327,702	313,750	313,750	95.7	100.0
スポーツ保健課	203,834	179,461	179,461	88.0	100.0
文化課	436,375	413,254	413,254	94.7	100.0
計	18,330,001	17,829,859	17,810,066	97.2	99.9

(2) 歳出

(単位：千円)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	B/A
教育政策課	2,675,790	2,668,013	0	99.7
生涯学習課	667,872	600,358	35,394	89.9
学校教育振興課	78,331,896	77,405,884	423,491	98.8
高校教育課	590,456	568,543	7,000	96.3
義務教育課	882,524	841,837	0	95.4
スポーツ保健課	5,746,534	5,701,352	23,023	99.2
文化課	1,236,850	1,181,649	28,729	95.5
計	90,131,922	88,967,636	517,637	98.7

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

IV 平成22年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(平成22年4月1日～平成22年10月31日)

	氏名	職業
委員長	禿 了 滉	学校法人学園長
委員（委員長職務代理者）	稲 山 幹 夫	会社役員
委員	津 田 さとみ	自営業
委員	林 逸 男	会社役員
委員	清 川 肇	会社役員
委員（教育長）	広 部 正 紘	

(平成22年11月1日～平成22年12月24日)

	氏名	職業
委員長	稲 山 幹 夫	会社役員
委員（委員長職務代理者）	林 逸 男	会社役員
委員	禿 了 滉	学校法人学園長
委員	津 田 さとみ	自営業
委員	清 川 肇	会社役員
委員（教育長）	広 部 正 紘	

(平成22年12月25日～平成23年3月31日)

	氏名	職業
委員長	稲 山 幹 夫	会社役員
委員（委員長職務代理者）	林 逸 男	会社役員
委員	津 田 さとみ	自営業
委員	清 川 肇	会社役員
委員	川 畑 紀 義	歯科医師
委員（教育長）	広 部 正 紘	

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・ 開催回数 20回
- ・ 附議事項 44件

- 第922回（平成22年4月9日（金））
 - ・ 平成22年度基本方針の決定について
 - ・ 平成22年度福井県教科用図書選定審議会委員の任命について

- 第923回（平成22年4月28日（水））
 - ・ 産業教育審議会委員の任命について

- 第924回（平成22年5月19日（水））
 - ・ 福井県立高等学校授業料等徴収条例の一部改正について
 - ・ 福井県立高等学校授業料および入学料の減免に関する規則の改正について
 - ・ 福井県心身障害児就学指導委員の委嘱について
 - ・ 福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について
 - ・ 福井県立音楽堂名誉館長の設置について

- 第925回（平成22年6月10日（木））
 - ・ 福井県社会教育委員の会議委員の委嘱について
 - ・ 福井県立高等学校の定時制・通信制課程における後期編入学者選抜の実施に伴う関係規則の整備について

- 第926回（平成22年6月29日（火））
 - ・ ハラスメントの防止に関する指針について
 - ・ 平成23年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
 - ・ 福井県立恐竜博物館運営協議会委員の任命について

- 第927回（平成22年7月8日（木））
 - ・ 平成23年度使用の県立高等学校および県立特別支援学校高等部教科書採択資料作成委員の委嘱について
 - ・ 平成22年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について

- 第928回（平成22年7月20日（火））
 - 報告事項のみ

- 第929回（平成22年8月3日（火））
 - 協議・報告事項のみ

- 第930回（平成22年8月25日（水））
 - ・ 平成21年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
 - ・ 平成23年度使用福井県高等学校および県立特別支援学校高等部の教科用図書の採択について
 - ・ 福井県立学校設置条例の一部改正について
 - ・ 福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
 - ・ 福井県選手強化対策委員会委員の委嘱について

- 第931回（平成22年9月10日（金））
 - ・ 平成23年度福井県立高等学校入学者選抜に係る制度の改正について

- 第932回（平成22年9月24日（金））
 - 協議・報告事項のみ

- 第933回（平成22年10月6日（水））
 - 協議・報告事項のみ

- 第934回（平成22年10月28日（木））
 - ・ 公益法人の寄付行為変更について
 - ・ 平成23年度福井県立学校入学者募集定員について
 - ・ 平成23年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項等の制定について
 - ・ 平成23年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学選考実施要項の制定について
 - ・ 平成22年11月1日付け県立学校校長、教頭の人事異動について

- 第935回（平成22年11月15日（月））
 - ・ 福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
 - ・ 福井県立体育施設の指定管理者の指定について
 - ・ 福井県立若狭歴史民俗資料館運営協議会委員の任命について
 - ・ 平成22年福井県文化賞等受賞者の決定について

- 第936回（平成22年12月20日（月））
 - ・ 平成23年1月1日付け人事異動について
 - ・ 平成23年度教職員人事異動方針について
 - ・ 特例民法法人の合併認可について

- 第937回（平成23年1月11日（火））
 - ・ 公益法人の残余財産処分許可について

- 第938回（平成23年1月26日（水））
 - ・ 公立幼稚園の廃止認可について

- 第939回（平成23年2月7日（月））
 - ・ 市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
 - ・ 福井県奨学育英資金貸付基金条例の一部改正について
 - ・ 福井県奨学育英資金貸付基金管理規則の一部改正について
 - ・ 福井県立学校職員定数条例の一部改正について

- 第940回（平成23年3月10日（木））
 - ・ 平成23年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職（教員出身者）の人事異動について
 - ・ 平成23年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について
 - ・ 平成22年度ふくい優秀教職員表彰被表彰者の決定について
 - ・ 福井県指定文化財の指定について

- 第941回（平成23年3月25日（金））
 - ・ 福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名
平成22年 4月 2日	平成22年度初任者研修	禿
4月 9日	第922回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
4月28日	第923回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
4月30日	学校訪問 (嶺南西養護、小浜水産、若狭、若狭東)	津田、広部
5月 7日	永年勤続教職員表彰式	禿、稲山、津田、林、清川、広部
5月10日	学校訪問 (勝山、勝山南、大野東、大野)	稲山、広部
5月17日	学校訪問 (三国、坂井農、春江工)	林、広部
5月19日	第924回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
5月20日	若狭地区高校教育懇談会	津田、広部
5月24日	学校訪問 (藤島、高志)	稲山、広部
5月24日	坂井地区地教委連絡協議会	林
5月25日	市町教育委員会連絡協議会 総会	禿
5月25日	市町教育委員会連絡協議会 研修会	津田、清川
5月26日	学校訪問 (福井東養護、同月見分校、福井南養護、清水養護)	清川、広部
5月31日	学校訪問 (嶺北養護、丸岡、同城東分校、金津)	林
6月 1日	県議会本会議	清川、広部
6月 1日	福井県女性教育委員の会	津田
6月 4日	県議会本会議	禿、広部
6月 7日	県議会本会議	稲山、広部
6月 8日	県議会本会議	津田、広部
6月10日	第925回教育委員会	稲山、津田、林、清川、広部
6月21日	県議会本会議	林、広部
6月22日	学校訪問 (丹生、丹南、鯖江)	禿、広部
6月23日	学校訪問 (足羽、羽水、福井農林)	清川、広部
6月24日	学校訪問 (南越養護、武生東、武生工)	禿、広部
6月25日	学校訪問 (嶺南東養護、美方、敦賀、敦賀工)	津田
6月28日	学校訪問 (福井養護、科学技術、道守、福井商)	清川、広部
6月29日	第926回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
6月30日	学校訪問 (武生商、武生、同池田分校)	禿、広部

時 期	活 動 内 容	委 員 名
7月 8日	第927回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
7月13・14日	全国教育委員会連合会第1回総会	禿、広部
7月16日	一乗谷朝倉氏遺跡資料館企画展開会式	稲山
7月20日	第928回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
7月23日	今後の水産高校教育に関する検討会議	津田、広部
8月 3日	第929回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
8月10日	教員採用試験面接	稲山、清川
8月11日	教員採用試験面接	津田、林
8月12日	教員採用試験面接	津田
8月13日	教員採用試験面接	林
8月25日	第930回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
8月30日	第73回国民体育大会福井県準備委員会設立総会・第1回総会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
9月 7日	県議会本会議出席	津田、広部
9月 9日	県議会本会議出席	稲山、広部
9月10日	第931回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
9月14日	県議会本会議出席	清川、広部
9月15日	県議会本会議出席	林、広部
9月24日	第932回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
9月25日	嶺南西養護学校体育祭	津田
10月 2日	マナビ・フェスティバル	禿、稲山、清川
10月 2日	嶺南東養護学校学校祭	津田
10月 4日	県議会本会議出席	禿、広部
10月 6日	第933回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
10月 8日	若狭歴史民俗資料館特別展開会式	津田
10月13・14日	市町村教育委員会研究協議会	禿、稲山、津田
10月19日	国体準備委員会常任委員会	禿
10月23日	東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会	稲山
10月24日	ふくい子ども文化祭	稲山、津田、林、清川、広部
10月28日	第934回教育委員会	禿、稲山、津田、林、清川、広部
10月29日	管理職任用選考試験面接	稲山
11月 1日	管理職任用選考試験面接	林
11月 2日	管理職任用選考試験面接	禿
11月 2日	嶺南東養護学校視察	津田
11月2・4・5日	ふれあい文化子どもスクール	禿、稲山、津田、林、清川、広部
11月 4日	管理職任用選考試験面接	津田
11月 8日	管理職任用選考試験面接	清川

時 期	活 動 内 容	委 員 名
1 1 月 9 日	管理職任用選考試験面接	津田
1 1 月 1 0 日	管理職任用選考試験面接	稲山
1 1 月 1 1 日	管理職任用選考試験面接	禿
1 1 月 1 1 ・ 1 2 日	東海北陸ブロック教育委員会全員協議会	稲山、林、清川
1 1 月 1 2 日	管理職任用選考試験面接	禿
1 1 月 1 5 日	第 9 3 5 回教育委員会	稲山、禿、津田、林、清川、広部
1 1 月 2 0 日	嶺北西養護学校やまもも祭	津田
1 1 月 2 5 日	市町女性教育委員の会	津田
1 1 月 2 6 日	県議会本会議	清川、広部
1 1 月 3 0 日	県議会本会議	禿、広部
1 2 月 2 日	県議会本会議	林、広部
1 2 月 3 日	県議会本会議	津田、広部
1 2 月 9 日	平成 2 2 年教育功労者表彰式	稲山、禿、津田、林、清川、広部
1 2 月 1 0 日	平成 2 2 年文化賞等授与式	稲山、林、広部
1 2 月 1 7 日	県議会本会議	稲山、広部
1 2 月 2 0 日	第 9 3 6 回教育委員会	稲山、禿、林、津田、清川、広部
1 月 8 日	「はやぶさ」カプセル展示式典	稲山、広部
1 月 1 1 日	第 9 3 7 回教育委員会	稲山、林、津田、清川、川畑、広部
1 月 2 4 日	全国都道府県教育委員会連合会総会等	稲山、広部
1 月 2 5 日	大野市教育委員との懇談	稲山
1 月 2 6 日	第 9 3 8 回教育委員会	稲山、林、津田、川畑、広部
2 月 7 日	県政功労者表彰式	稲山、広部
2 月 7 日	第 9 3 9 回教育委員会	稲山、林、津田、清川、川畑、広部
2 月 7 日	岐阜県教育委員との意見交換	稲山、津田、川畑、広部
1 月 1 5 日	北陸三県教育委員全員協議会	稲山、林、津田、清川、川畑、広部
1 月 1 6 日	県議会本会議	川畑、広部
1 月 1 8 日	県議会本会議	稲山、広部
1 月 2 2 日	県議会本会議	清川、広部
1 月 2 3 日	県議会本会議	林、広部
3 月 1 日	県立学校卒業式（丸岡）	林
3 月 1 日	市町女性教育委員の会	津田
3 月 2 日	県立学校卒業式（大野、敦賀、藤島、丹南）	稲山、津田、清川、川畑
3 月 3 日	県立学校卒業式（大野東、三国、美方、福井商業、武生商業、福井農林）	稲山、林、津田、清川、川畑、広部
3 月 4 日	県立学校卒業式（勝山南、武生池田、若狭）	稲山、川畑、広部
3 月 6 日	県立学校卒業式（道守）	清川
3 月 7 日	県議会本会議	津田、広部

時 期	活 動 内 容	委 員 名
3月10日	第940回教育委員会	稲山、林、津田、清川、川畑、広部
3月11日	県立学校卒業式（嶺北養護）	林
3月11日	福井保護司選考会	稲山
3月15日	県立学校卒業式（嶺南東養護）	津田
3月25日	ふくい優秀教職員表彰式	稲山、林、津田、清川、川畑、広部
3月25日	第941回教育委員会	稲山、林、津田、清川、川畑、広部
3月28日	辞令交付式	稲山、林、津田、清川、川畑、広部

※ 教育長単独での活動の記載は省略してあります。

3 審議会等審議状況

名 称	委 員 数	会 議 開 催 数	件 名	種 別	年 月 日
福井県心身障害児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	22. 6. 18 22. 9. 17 23. 1. 14
福井県教科用図書選定審議会	19	3	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	22. 4. 21 22. 6. 2 22. 6. 17
福井県文化財保護審議会	15	3	県指定の現地調査依頼について 指定文化財の諮問について（本荘春日神社本殿ほか7件） 指定文化財の答申について（本荘春日神社本殿ほか7件）	審議・諮問・協議・答申	22. 5. 14 22. 11. 29 23. 2. 15
福井県立歴史博物館運営協議会	11	2	平成22年度事業実施状況について 今後の事業計画について 平成22年度事業実績について 平成23年度事業計画について	協議	22. 8. 6 23. 3. 17
福井県立恐竜博物館運営協議会	10	2	平成22年度事業実施状況について 今後の事業計画について 平成22年度事業実績について 平成23年度事業計画について	協議	22. 11. 7 23. 3. 17
福井県立美術館運営協議会	10	2	平成22年度事業実施状況について 今後の事業計画について 平成22年度事業実績について 平成23年度事業計画について	協議	22. 10. 20 23. 3. 9
福井県立若狭歴史民俗資料館運営協議会	7	2	平成22年度事業実施状況について 今後の事業計画について 平成22年度事業実績について 平成23年度事業計画について	協議	22. 11. 2 23. 3. 15
福井県朝倉氏遺跡研究協議会	10	2	平成22年度事業実施状況について 今後の事業計画について 平成22年度事業実績について 平成23年度事業計画について	協議	22. 8. 25 23. 2. 23

福井県産業 教育審議会	17	0	—	—	—
福井県高等 学校教育問 題協議会	0	0	—	—	—

4 教育委員会関係の許認可の状況

(1) 教育職員免許状の授与等（平成22年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合計
小学校	33	100	26		14	173
中学校	43	102	8		15	168
高等学校	65	165			44	274
特別支援学校	5	27	36		4	72
幼稚園	4	18	114		5	141
養護教員	1	17	4		2	24
栄養教員		7	15			22
自立教科等						
合計	151	436	203		84	874

(2) 文化財の指定状況

平成22年度においては、有形文化財（建造物）2件、有形文化財（美術工芸品）4件、無形民俗文化財1件、天然記念物1件を新たに県指定文化財に指定しました。

<指定文化財の現状>

平成23年4月1日現在

区分	国			県指定	計
	指定	選定・選択	登録		
国 宝	6				6
重要文化財	96				96
有形文化財			1	202	203
無形文化財	1			4	5
重要有形民俗文化財					
有形民俗文化財			1	9	10
重要無形民俗文化財	5				5
無形民俗文化財		10		60	70
特別史跡	1				1
史 跡	23			29	52
特別名勝	1				1
名 勝	12			4	16
特別天然記念物	4				4
天然記念物	16			32	48
特別名勝天然記念物					
名勝天然記念物	1				1
計	166	10	2	340	518
重要伝統的建造物群 保存地区		2			2
選定保存技術		1			1
登録有形文化財 (建造物)			88		88
登録記念物			2		2

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおり行いました。

登録証交付 118 件
 登録証再交付 4 件
 所有者変更 154 件

(4) 教育委員会所管の公益法人

51 法人（社団法人9、財団法人42）（平成23年3月31日現在）

5 公立高等学校入学者選抜学力検査（平成23年3月実施）結果の状況

全日制・定時制の第1次の学力検査合格者4,684人に関する課程別・教科別の平均点は、表1のとおりです。

また、推薦入学、第1次学力検査および第2次学力検査の課程別の合格者数は、表2のとおりです。

表1 課程別・教科別の平均点

※（ ）内は前年度実績

教科	全日制	定時制
国語	65.8 (68.8)	35.5 (43.3)
英語	67.2 (69.4)	21.9 (20.9)
数学	56.8 (56.7)	15.8 (20.1)
社会	62.7 (69.6)	
理科	60.8 (60.6)	
総点	313.2 (325.1)	73.5 (84.4)

表2 課程別の合格者数

	全日制	定時制	合計
推薦入学によるもの	1,018(1,164)		1,018(1,164)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	117(128)		117(128)
1次学力検査によるもの	4,477(4,655)	207(215)	4,684(4,870)
2次学力検査によるもの	20(34)	50(81)	70(115)
計	5,632(5,981)	257(296)	5,889(6,277)

6 平成22年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

第1次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成22年7月18日（日） 一般教養・教職専門	福井県立羽水高等学校 （福井市羽水1丁目302）
平成22年7月19日（月） 体育実技（体カテスト）	

第2次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成22年8月9日（月） 適性検査、作文、専門教科等試験	福井県立羽水高等学校 （福井市羽水1丁目302） 福井市木田小学校 （福井市木田1丁目1360）
平成22年8月10日（火）、11日（水）、 12日（木）、13日（金） 面接（4日間のうち指定した1日） （個人面接、場面指導）	

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保、選考過程の透明性、公平性を図るため、次のような改善を行いました。

○ 優秀な人材の確保

< 19年度から実施 >

- ・ 2次選考において、場面指導を導入
- ・ 国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

< 20年度から実施 >

- ・ 大学院修士課程修了時の特別選考を導入

< 21年度から実施 >

- ・ 面接による評価のウエイトの拡大
- ・ 「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

○ 受験者に対する情報の提供

< 20年度から実施 >

- ・ 2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・ 試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）
- ・ 個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示

1次選考、2次選考における筆記試験、実技試験、面接、作文の点数

- ・筆記試験、実技試験、面接、作文の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者、最終合格者について、合否結果通知の発送に合わせて、ホームページでも受験番号を公表

< 21年度から実施 >

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例、設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・不合格者の希望者に筆記試験、実技、作文、面接の各点数及び合計点数を通知

○ 選考過程の改善

< 20年度から実施 >

- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検実施
- ・民間有識者による、選考手順や選考内容の点検、抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合

< 21年度から実施 >

- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号の使用

7 研修の実施状況

平成22年度の職員研修については次のとおりです。

区 分		研 修 名	研修期間
指 定 研 修	基本研修	初任者研修	1年(25日+300時間)
		幼稚園新採用教員研修	10日
		5年経験者研修	3.5日
		10年経験者研修(含幼稚園)	25日
	主任等研修	教務主任研修	1講座 1日
		研究主任研修	1講座 1日
		教育相談・生徒指導主事研修	1講座 1日
		養護教諭研修	1講座 1日
		栄養教諭・学校栄養職員研修	1講座 1日
		理科実習助手研修	1講座 1日
		臨時任用講師研修	1講座 4日
	管理職等研修	中堅教員研修	3講座 各3~4日
		新任校長研修	1講座 4日
新任教頭研修		1講座 5日	
	経年管理職研修	1講座 1日	
専 門 研 修	教科等に 関する 研修	幼稚園教育に関する研修	3講座 各1日
		小学校の各教科に関する研修	26講座 各1~2日
		中学校の各教科に関する研修	21講座 各1~2日
		高校の各教科に関する研修	12講座 各1~2日
		その他(校種を超えた研修)	6講座 各1日
	教科以外の 課題等に 関する研修	道徳教育	2講座 各2日
		学級経営	1講座 1日
		不登校対応	1講座 1日
		教育相談関係	6講座 各1日
		総合的な学習の時間	1講座 1日
		食育	1講座 1日
		人権教育	1講座 1日
		学校評価	1講座 1日
		幼小連携	1講座 1日
		環境・エネルギー理解	1講座 1日
		白川文字学	1講座 2日
		NIE活動に関する研修	1講座 1日
		情報教育に関する研修	21講座 各1日
		組織マネジメント	2講座 各1日
		メンタルヘルス	1講座 1日
		保護者対応	1講座 1日
		教養研修	4講座 各1日
		特別支援教育に関する研修	48講座 各1日

8 福井大学教職大学院との連携の状況

高度な専門性と実践力を備えた教員の養成を目指して、平成19年に北陸地域で唯一設置された専門職大学院である福井大学の教職大学院と、さまざまな連携した取り組みを行っています。

○現職教員を教職大学院の実務家教員として派遣

現場での実践経験の豊かな管理職教員（元中学校長1名、元中学校教頭1名（平成22年度））を教職大学院の教員として平成19年開学時から派遣しています。

○中核現職教員を教職大学院の「スクールリーダー養成コース」の学生として派遣

教職大学院では新人教員の養成と併せ、「スクールリーダー養成コース」を開設し、地域や学校において指導的役割を果たし得る教員養成を目指しており、このコースに県内小中学校、県立高校から15名（平成22年度）の中堅教員を学生として派遣しています。

○学校を拠点とした協働実践研究の実施

スクールリーダー養成コースに入学した現職教員は、勤務する学校において、学校が抱えるテーマや課題について、教職大学院の教員とともに協働研究を行っています。このような学校を拠点として実践的な研究を行うシステムにより、現職教員が学校で勤務を続けながら自校の課題について学校ぐるみで取り組むことが可能となっています。

○新任教頭研修と教員免許更新講習の協働についての検討

教育委員会が行う新任教頭研修と福井大学の教員免許更新講習との連携により、研修効果を高める方策を検討しました。これは教員免許更新研修のグループ討議でのファシリテーター（調整・進行者）役に、新任教頭を起用するものであり、新任教頭研修の一環として23年度から実施するものです。これにより、教職員評価システムにおいて、新たに評価者となる新任教頭のコーチング技術等の向上が図られるものと期待されています。

V 平成22年度の教育関係施策の取組実績

1 基本的方向

福井県教育委員会は、子どもたちは本県のみならず21世紀の日本や世界を担うかけがえのない存在であるという考えのもとに、個性や能力に応じて子どもたちの可能性を最大限に伸ばす「ていねいな教育」、将来、社会人として自立して生きていくために必要な主体性や社会性を育む「きたえる教育」、「文化・スポーツの振興」の3つを柱に29項目の重要施策を目標に掲げ、豊かな人間性を備えた魅力ある人づくりを推進しました。

2 実施結果の概要

(1) 総合的な学力向上

- ・ 「元気福井っ子新笑顔プラン」に基づき、小学校1、2年への非常勤講師の配置と中学校2、3年の少人数学級編制を拡充しました。
- ・ 小・中学校においては、授業改善について各学校の中核となる教員の育成や授業名人の技の継承など、学校の授業を基礎に教員の指導力向上を図りました。
- ・ 県内高校生の学力分析結果に基づく教材の作成のほか、教員の予備校への派遣や公開授業等を通じた教員の指導力向上等、各高校の実態に即した学力向上施策を進めました。
- ・ サイエンス教育については、はやぶさプロジェクトマネージャ 川口淳一郎氏を招いて開催した「ふくいサイエンスフォーラム」のほか、「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」や「ふくい理数グランプリ」、「ふくいサイエンス寺子屋」など子どもたちの理数系科目への興味・関心を高めるための事業を引き続き実施しました。
- ・ 高校生の就職支援については、各高校が就職支援コーディネーターと協力して企業訪問等を行うことにより、求人確保や卒業生の就業状況等の把握を行い、就職内定率の向上や離職率の低下につなげました。

(2) 魅力ある学校の在り方

- ・ 県立高校の再編整備については、平成23年4月の奥越明成高校の開校に向け、カリキュラムの編成や必要な施設・設備の整備などを行いました。
また、勝山南高校の敷地等を活用した奥越地区特別支援学校（仮称）の整備については、平成25年4月の開校を目指して、校舎等の設計に着手しました。

(3) いつでも身近に福井の文化

- ・ 白川静博士の生誕百年を記念して、記念フォーラムや漢字シンポジウム、漢字スタジアムを開催し、「文字の国 福井」を全国にアピールしました。
また、平成23年度から白川文字学を活用した漢字学習を全ての小学校の授業で実施するための準備を進めるとともに、漢字解説本「白川静博士の漢字の世界へ」の全国書店での販売を行いました。
- ・ 県下全小学校の5年生児童が一流のオーケストラの演奏等を鑑賞する「ふれあい

文化子どもスクール」等、子どもたちが本物の芸術・文化に直接触れる機会を充実しました。

(4) 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援

- ・ 平成30年の第73回国民体育大会に向けて、8月に「第73回国民体育大会準備委員会」を立ち上げ、開催地選択競技の選定や競技施設基準の作成、会場地市町の選定等具体的な検討を行う体制づくりを進めました。

3 施策項目に係る結果について

平成22年度 施策項目に係る実施結果（平成23年3月末現在）

【実施結果区分の説明】

- ・ 目標を上回って達成しました。（例：成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの）
- ・ 目標を達成しました。（例：成果が目標どおり達成されたもの）
- ・ 目標を一部達成しませんでした。（例：成果の一部が目標に及ばなかったもの）
- ・ 目標達成にはいたりませんでした。（例：成果が目標に及ばなかったもの）
- ・ 引き続き実施します。（例：成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの）

項目数	取組結果				
	目標を上回って達成	目標を達成	目標を一部未達成	目標未達成	引き続き実施
29	2	23	1	1	2

項 目																
<p>◇ 総合的な学力の向上</p> <p>・「元気福井っ子新笑顔プラン」の推進 平成20年度に定めた県独自の学級編成基準「元気福井っ子新笑顔プラン」を引き続き推進し、全国トップレベルのきめ細かな教育を行う体制を整備して、子どもたちの学力のさらなる向上を図ります。</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>「新笑顔プラン」に基づき、中学校2、3年生の学級編成基準を34人から33人に引き下げるとともに、小学校1、2年生の33人以上の学級にも非常勤講師を配置するなど、本県独自の少人数教育を拡充しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">小学校1、2年</td> <td style="padding: 2px;">学校生活サポート非常勤講師の配置（33人以上学級）</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">小学校3、4年</td> <td style="padding: 2px;">チーム・ティーチングや少人数指導の強化</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">小学校5、6年</td> <td style="padding: 2px;">少人数学級編成を実施</td> <td style="padding: 2px; text-align: right;">36人</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">中学校1年</td> <td style="padding: 2px;">〃</td> <td style="padding: 2px; text-align: right;">30人</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">中学校2、3年</td> <td style="padding: 2px;">〃</td> <td style="padding: 2px; text-align: right;">33人</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">実施結果</p>	小学校1、2年	学校生活サポート非常勤講師の配置（33人以上学級）		小学校3、4年	チーム・ティーチングや少人数指導の強化		小学校5、6年	少人数学級編成を実施	36人	中学校1年	〃	30人	中学校2、3年	〃	33人
小学校1、2年	学校生活サポート非常勤講師の配置（33人以上学級）															
小学校3、4年	チーム・ティーチングや少人数指導の強化															
小学校5、6年	少人数学級編成を実施	36人														
中学校1年	〃	30人														
中学校2、3年	〃	33人														
<p>・小中学生の学力向上の推進 児童・生徒の課題を解決する力や、自ら意欲的に学習する力を伸ばすため、「元気ふくいっ子学力向上センター」を中心に、各小中学校の学力向上プランの推進を支援します。</p> <p>また、児童・生徒の学力の向上のためには、教員の資質・能力の向上が不可欠であることから、授業の中で学校の中核となる教員の育成や授業名人の技の継承など、授業をベースにした指導力向上策を進めます。</p> <p>22年度から抽出方式で実施される全国学力・学習状況調査について、市町教育委員会と連携して、これまでどおり該当学年全員を対象に実施し、その分析結果を授業の改善に役立てます。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 20px;"> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">(平成21年度：</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">小学校 77.2%</td> <td style="padding: 5px;">中学校 57.8%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">小学校 80%</td> <td style="padding: 5px;">中学校 60%</td> </tr> </table>	県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合		(平成21年度：		小学校 77.2%	中学校 57.8%)		小学校 80%	中学校 60%	<p>【成果等】 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>各小・中学校において学力向上プランを作成し、これに基づき学習指導を行ったほか、児童生徒の読解力や応用力を伸ばすための指導事例集の配布や、学校の中核となる教員の育成（27小中学校）、授業名人の技の継承（5グループ）など、授業をベースにした指導力向上策を進めました。</p> <p>また、抽出方式で実施された全国学力・学習状況調査について、市町教育委員会と連携して、これまでどおり該当学年全員を対象に実施し、その分析結果を指導事例集や誤答分析資料集として取りまとめ、全小中学校でそれぞれ授業改善を進めました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 20px;"> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">小学校 76.8%</td> <td style="padding: 5px;">中学校 58.3%</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">実施結果</p>	県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合		小学校 76.8%	中学校 58.3%	
県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合																
(平成21年度：																
小学校 77.2%	中学校 57.8%															
)																
小学校 80%	中学校 60%															
県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合																
小学校 76.8%	中学校 58.3%															

<p>・ 高校生の学力向上の推進 学力向上推進委員会の学力分析に基づいた教材作成を行うとともに授業研究や教員向け指導書の作成等により教員の指導力向上を図ります。 併せて、県立高校30校が、普通科系を対象とした「弱点克服特別プログラム」や、職業系を対象とした「企業や地域等との連携講座」など、各々の実態に応じて独自に企画した学力向上事業を行い、高校生の総合的な学力向上を進めます。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>県内高校生の学力分析結果に基づき、大学入試センター試験対策や基礎学力充実のための教材を作成し、各校における教科指導に活用しました。また、10名の教員を予備校に派遣したほか、公開授業、実験研修会等を県下で25回開催するなど教員の指導力向上を図りました。さらに、各校が独自に、または連携して企画する総合的な学力向上に向けた取組みを支援しました。</p> <p>この結果、2011年度大学入試センター試験の地理B、物理Iにおいて、受験者の平均点の全国順位が上昇するなどの改善が見られました。</p>
<p>・ 新学習指導要領への対応 平成23年度からの小学校の新学習指導要領完全実施に向けて、教科用図書の採択や活用、学習評価の在り方について、市町教育委員会等へ適切な指導や支援を行うなどの準備を進めます。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>8月および12月に教育課程説明会を開催するなど、新しい教科用図書の採択や活用、学習評価の在り方について、市町教育委員会等へ適切な指導や支援を行いました。</p>
<p>・ 学力向上の推進体制の整備 庁内の各組織や機関が有する知識や人材、施設などを教育現場に提供し、学力向上施策をさらに効果的に行うことができるよう、部局横断型の学力・体力向上推進会議を開催し、全国上位にある本県の児童生徒の学力の維持向上を支援します。</p>	実施結果	<p>【成果等】 引き続き実施します。</p> <p>全国トップクラスの学力・体力の維持・向上を図るため、庁内関係部局が有する教育資源の活用について検討しました。</p> <p>また、幼児教育の課題やあり方について、総務部や健康福祉部と連携し、保育園や幼稚園、小学校等関係者や有識者から意見を聞きました。</p> <p>これからも、本県の「総合的な学力」の向上のための連携策について検討を進めていきます。</p>

<p>・「福井の教育」の発信 白川文字学を活用した漢字教育など優れた本県の教育施策を全国に広め、地域間で切磋琢磨し、さらなる向上につなげる機運を醸成します。また、課題解決プロジェクトチームを編成して、メディアや出版社、学習塾等へのアプローチや情報提供等を機動的に行います。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>本県は全国の学力・体力テストで続けて好成績を収めていることから、近年文武両道の教育県としての評価が定着し、全国の自治体や教育関係者等100件を超える視察に応じています。</p> <p>また、メディア等にも積極的に協力し、教育誌をはじめとした雑誌等に本県の特色ある教育施策が掲載されました。</p> <p>さらに、大手出版社の協力により、県教育委員会編集による「白川文字学」の漢字解説本が全国書店で販売されることになりました。</p>
<p>◇ ふるさと教育の推進</p> <p>・ふるさと教育の推進 感謝する心や感動する心、思いやる心、郷土を愛する心など子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むため、小学校における2泊3日以上の特設宿泊体験などの自然体験活動の支援を充実します。</p> <p>また、「県立こども歴史文化館」を拠点として、次代を担う子どもたちが、郷土の先人・達人の生き方や業績などを学び、本県の歴史文化に親しむ、ふるさと学習を推進します。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>小学校において2泊3日以上の特設宿泊体験を行った18校に対して助成するなど自然体験活動を支援するとともに、2泊3日以上の特設宿泊体験の実践事例のリーフレットを作成し、各小学校に配布して普及を図りました。</p> <p>また、郷土に関する学習の実践事例を取りまとめ、県のホームページに掲載し、広く周知しました。</p>
<p>◇ 外国語（英語）教育</p> <p>・小学校での外国語（英語）指導 平成23年度からの小学校高学年での外国語活動の本格的導入に向けて、英語活動を行う時間数を増やします。</p> <p>また、小学校の教員を対象にした、英語の指導者養成研修会を開催し、教員の指導力向上に努めます。</p> <p>〔英語活動の実施時間数 (平成21年度 年間28時間) 年間30時間〕</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>平成23年度からの外国語（英語）活動の本格実施に向けて、各小学校における英語活動の実施時間数を増やしました。</p> <p>また、小学生への外国語指導について小学校教員を対象とした研修会を開催し、指導力強化を図りました。</p> <p>〔英語活動の実施時間数 年間34時間〕</p>

<p>・外国語指導助手等を活用した外国語指導の充実</p> <p>夏季休業期間中に外国語指導助手（ALT）を活用して高校生英語キャンプを実施し、高校生の英語コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>また、英語教員とALTとの教授法の共有化や、NHK番組を活用した指導法の研究、英語教員を対象とした集中セミナーを通して、英語教員の指導力の向上と授業改善に努めます。</p> <p>（授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合（中学校3年生） （平成21年度 49.0%） 50.0%）</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>中学校教育研究会英語部会において”コミュニケーション能力”の強化を指導するとともに、新たに指導案や教材を作成し、教育研究所の教材研究支援システムに登載するなど、英会話活動の充実を図りました。</p> <p>また、外国語指導助手（ALT）の研修に英語担当教員も参加して互いに研究しあうなど、研修内容の充実を図りました。</p> <p>8月に、高校生とともにALTや留学生も参加する英語キャンプを開催し、実践的なコミュニケーションに取り組みせたほか、英語教員集中セミナーを開催し、授業改善や指導力強化を図りました。また、NHKと連携し、授業での英語番組やDVDを活用した英語学習の充実に取り組みました。</p> <p>（授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合（中学校3年生） 50.0%）</p>
<p>◇ サイエンス(理科、算数・数学)教育</p> <p>・分かりやすい理科授業</p> <p>小学校の理科授業で観察・実験を補助する「理科支援員」の配置や専門的な内容を分かりやすく教える特別講師の派遣を拡充し、分かりやすい理科授業を広く行い、理科授業の充実を図ります。</p> <p>（「理科支援員」の活動学校数 （平成21年度 61校） 70校）</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>理科支援員の配置により、実験等を多く取り入れた理科授業を実施し、「実験が増えて理科が好きになった」、「教科書に書いてある意味がよくわかった」など、理科に対する児童の興味・関心を高めることができました。</p> <p>（「理科支援員」の活動学校数 88校）</p>

<p>・「ふくいサイエンス寺子屋」の開催 放課後や長期休業中等に、公民館や児童館など子どもが集まる場所で、科学実験等を行う「ふくいサイエンス寺子屋」を開催し、理科や算数・数学に対する興味・関心を高めます。</p> <p>「ふくいサイエンス寺子屋」の開催数 (平成21年度115か所) 120か所</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。 公民館や児童館など身近な場所において学校で学習しない内容を体験できることから開催希望が多く、目標を上回って開催しました。</p> <p>「ふくいサイエンス寺子屋」の開催数 138か所</p>
<p>・世界に通じる知的探究心の育成 世界の最先端科学技術に触れ学ぶ「スーパーサイエンスフォーラム」や理科・数学の応用力や実験力を競う「ふくい理数グランプリ」の開催、南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞の授与等により、サイエンスに対する知的探究心をさらに育成するとともに、国際科学コンテスト等への参加者数が増えるよう新たな仕組みを検討します。</p> <p>また、県内外の大学や企業、民間団体等との連携を図り、本県の中・高校生が研究機関での研修等に参加する機会をつくれます。</p> <p>全国・世界規模の科学コンテストへの参加者数 (平成21年度37人) 60人</p> <p>「ふくい理数グランプリ」への参加者数 (平成21年度 302人) 350人</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を一部達成しませんでした。 1月の小惑星探査機はやぶさカプセル展示と合わせて「スーパーサイエンスフォーラム」を開催し、(独)宇宙航空研究開発機構はやぶさプロジェクトマネージャ 川口淳一郎氏、ノンフィクション作家 山根一真氏によるトークセッションを実施しました。また、併せて、第2回「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」の授賞式を行い、優秀な成績を収めた4個人、4グループを表彰しました。</p> <p>県内の中・高校生を対象に開催した「ふくい理数グランプリ」の参加者数は、昨年を上回りましたが目標には達しませんでした。</p> <p>一方で全国規模でのコンテストへの参加者は大幅に増加し、うち1人が全国物理コンテストで銅賞を受賞しました。</p> <p>全国・世界規模の科学コンテストへの参加者数 100人 「ふくい理数グランプリ」への参加者数 328人</p>

<p>◇ 職業意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業人材の育成 職業系高校と公設試験研究機関や企業・関係機関等との連携を進め、企業見学会や技術者による技術指導など実践的な産業人材育成プログラムを進めます。 	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>キャリア教育のために有用な関係施設の見学や外部講師による講演、企業と連携した商品開発への取組みなどにより、就労意識の高揚や進路選択に向けた意識付け、情報収集が図られました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生に対する就職支援 高校生の就職内定率の向上を図るため、教員や就職支援コーディネーターによる企業訪問や就業体験を実施するとともに、就職した卒業生に対してきめ細かなフォローアップを行い、離職率の低下を図ります。 <p>（ 高校生の就職3年後の離職率 （平成21年度 40.9%） 40%未満 ）</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>就業体験や就職内定者に対するビジネススキルアップセミナーの実施により、高校生の就労意識の高揚を図りました。</p> <p>また、教員や就職支援コーディネーターによるきめ細かな就職相談の実施や企業への求人確保の要請により就職内定率が向上しました。さらに就職応募前職場見学の積極的な実施や離職防止のための企業訪問の実施等により、就職3年後の離職率が初めて40%を下回りました。</p> <p>（ 平成19年3月卒業者の3年後離職率（平成22年度） 39.4% ）</p>
<p>◇ 笑顔で登校できる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題をもつ子どもたちへの適切な対応 すべての児童生徒が笑顔で登校できる学校づくりを図るため、専門家や保護者等の意見を聞きながら、不登校の未然防止と不登校児童生徒の早期学校復帰等を進めるための指針を策定します。 また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを定時制高校に、登校支援員を中学校に新たに配置し、心の悩みの相談や家庭への働きかけを進めるとともに、福祉や雇用、教育の相談機関やフリースクールとの連携を強化します。 <p>（ 不登校児童・生徒数（公立のみ） （平成21年度 小学校160人 中学校630人） 小学校140人 中学校600人 スクールカウンセラー活動校数 小学校 21校、中学校 74校 高等学校 7校 ）</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>国立教育政策研究所や市町と連携した不登校対策の強化により、8月に「県不登校対策指針」を策定し、公立学校の全ての教員に未然防止を重点とした対策を徹底しました。</p> <p>また、小・中学校において、「欠席状況シート」により児童・生徒の欠席の状況を早期に把握し、各学校・教育委員会で情報を共有する体制を整え、学校ぐるみでの組織的な対応を行いました。</p> <p>（ 不登校児童・生徒数（公立のみ） 小学校 130人 中学校 582人 スクールカウンセラー活動校数 小学校21校 中学校74校 高等学校7校 ）</p>

<p>◇ 魅力ある学校の在り方</p> <p>・ 県立高校の再編整備 生徒一人ひとりにとって最良の教育環境を整備するため、県立高等学校再編整備計画に沿って、県立高校の再編整備を進めます。 また、勝山南高校の敷地等を活用して、奥越地区特別支援学校（仮称）の整備を進めます。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>平成23年4月の奥越明成高校の開校に向けて、校名・校章の選定や魅力あるカリキュラムの編成を行い、通学バスの利便性の向上、学校設備の充実などを図りました。 また、奥越地区特別支援学校（仮称）については、平成25年4月の開校を目指して校舎等の設計を行っています。</p>
<p>◇ いつでも身近に福井の文化</p> <p>・ 文化による暮らしの質の向上 「教育・文化ふくい創造会議」の第三次提言の具体化を図るため、部局横断型の「福井県文化創造推進会議」により、文化関連施策の集約や新たな施策の立案を行い、全庁的に総合的な施策を推進し、暮らしの質の向上につなげます。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>4月に副知事を会長とし、各部企画幹で構成する「福井県文化創造推進会議」を設置し、教育長と知事部局が一体となり、教育・文化ふくい創造会議第三次提言の具体化を推進するとともに、文化に関する新たな連携施策の検討を進めました。</p>
<p>・ 「白川文字学」の普及 白川静博士の生誕百年を記念して、漢字をテーマにしたシンポジウム等を開催するなど、博士の偉業を改めて顕彰するとともに、「文字の国 福井」を全国に発信します。 また、平成23年度からすべての小学校で「白川文字学」を活用した授業を行えるよう、これまでの漢字学習を総括し、本県独自の漢字学習カリキュラムを作成します。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>白川静博士の生誕百年の記念事業として、4月24日に記念フォーラムを、7月29・30日には漢字シンポジウム等を開催し、白川博士の偉業を改めて顕彰するとともに、「文字の国 福井」を全国に発信しました。 また、平成23年4月から白川文字学を活用した本県独自の漢字学習を全ての小学校の授業に取り入れられるように県内61校で漢字学習カリキュラムの実践研究を行いました。 なお、大手出版社の協力により、漢字解説本の改訂版を2月25日から全国書店で販売することができました。</p>

<p>・子どもの読書活動の推進 国民読書年（2010年）をアピールするための児童向け絵本の原画展や講演会の開催とともに、県内公民館や市町図書館との連携によるキャンペーンの実施など、読書に対する県民の意識を高めます。</p> <p>また、PTA等関係団体と連携し、家庭等にある図書の寄贈や公立図書館との連携を深め、学校図書館の充実を図ります。</p> <p>なお、文字・活字文化の振興という観点から、学校においてNIEを継続的に進めます。</p> <p style="text-align: center;"> { 県立図書館の図書貸出冊数 (平成21年度 89万冊) 90万冊 } </p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>「国民読書年」に合わせ、読書に対する意識を高めるため、長野ヒデ子氏の絵本原画展と講演会の開催や読書ノート「どくしょのきろく」の配布、県内公共図書館の連携による図書館利用キャンペーンの実施などを行いました。</p> <p>また、読み聞かせ相談会の実施や県内2か所での講演会の開催により、読み聞かせの推進を図りました。</p> <p>24年7月に本県で全国大会が開催されるNIEについては、実践指定校、奨励校それぞれ5校を中心に、先進的な実践活動を進めています。</p> <p style="text-align: center;"> { 県立図書館の図書貸出冊数 90万8千冊 } </p>
<p>・子どもたちが本物の芸術・文化に直接触れる機会の充実 県立音楽堂や学校などで、子どもたちが第一級の芸術・文化に直接触れることができるよう、音楽や絵画等の鑑賞機会を拡充し、気軽に芸術・文化に親しみ楽しめる機会を増やします。</p> <p style="text-align: center;"> { 第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数 (平成21年度 60,856人) 65,000人 } </p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>第一級の芸術・文化を直接、鑑賞・体験する子どもの数は、65,182人となり、目標を上回りました。</p> <p>平成23年度においても、子どもたちが第一級の芸術・文化に触れる機会の充実に努めていきます。</p> <p style="text-align: center;"> { 第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数 65,182人 } </p> <p style="text-align: center;"><内訳></p> <p>(1) 学校等において芸術文化を鑑賞・体験 ふれあい文化子どもスクール、子ども鑑賞シート ちびっこコンサート、ふれあいミュージアムほか 33,896人</p> <p>(2) 地域において芸術文化を鑑賞・体験 伝統文化子ども教室、ヤングアートフェスティバルほか 19,766人</p> <p>(3) 活動内容を発表する機会 ふくい子ども文化祭、県高等学校総合文化祭 9,229人</p> <p>(4) 芸術文化のレベルアップを図る機会 ヤング・アート・キャンプ、ハーモニーセミナー 2,291人</p>

<p>・文化財の調査と指定の推進 県内の近代和風建築や白山信仰関係文書の詳細な調査と併せ、国・県指定文化財の候補である福井・坂井・奥越地区の庭園や越前焼の窯跡などの現地調査に着手するなど、文化財の歴史的・学術的な価値を明らかにします。また、その保存と活用のため、国に対して重要文化財等の指定を積極的に働きかけます。</p> <table border="1" data-bbox="191 571 646 896"> <tr> <td>文化財の指定・登録等</td> <td>15件</td> </tr> <tr> <td>平成21年度における指定等件数</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>史跡（追加指定）</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>国選択無形民俗文化財</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>国登録有形文化財</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>県指定文化財</td> <td>6件</td> </tr> </table>	文化財の指定・登録等	15件	平成21年度における指定等件数	11件	史跡（追加指定）	1件	国選択無形民俗文化財	1件	国登録有形文化財	3件	県指定文化財	6件	実施結果	<p>【成果等】 目標を上回って達成しました。</p> <p>近代和風建築の現地調査を継続して進め、平面図作成に着手するとともに白山信仰関係文書では滝谷寺文書群の詳細調査を実施しました。</p> <p>また、有形文化財や庭園など県指定等に向けた現地調査および越前焼の歴史的価値を明らかにするための窯跡分布調査を文化財に関わる専門職員で構成する文化財指定等推進チームが実施したほか、国指定候補となる文化財については、文化庁に対して、保存修理事業や発掘調査の進捗状況、実施結果などの情報提供を積極的に行いました。</p> <p>引き続き、文化財指定に必要な調査を計画的に実施し、文化財の価値を明らかにしながら、文化財の新規指定・登録等を進めていきます。</p> <table border="1" data-bbox="742 728 1468 918"> <tr> <td>平成22年度における指定等件数</td> <td>32件</td> </tr> <tr> <td>重要文化財</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>国登録有形文化財</td> <td>23件</td> </tr> <tr> <td>県指定文化財</td> <td>8件</td> </tr> </table>	平成22年度における指定等件数	32件	重要文化財	1件	国登録有形文化財	23件	県指定文化財	8件
文化財の指定・登録等	15件																					
平成21年度における指定等件数	11件																					
史跡（追加指定）	1件																					
国選択無形民俗文化財	1件																					
国登録有形文化財	3件																					
県指定文化財	6件																					
平成22年度における指定等件数	32件																					
重要文化財	1件																					
国登録有形文化財	23件																					
県指定文化財	8件																					
<p>・「平成ふくい風土記」運動の推進 福井県の日々の暮らしや景観の中にある身近な文化を住民自らが資料として後世に残す「平成ふくい風土記」運動を推進するため、刊行物等の活動成果を分かりやすく分野ごとに情報を収集・整理し、ホームページ等により県民に公開します。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>新聞記事や図書館が保有する蔵書などから「平成のふくい」を紹介した刊行物等に関する情報を分野（自然・歴史・生活・産業・未来）ごとに収集・整理し、台帳化するとともにホームページ「福井の文化財」で公開しました。</p> <p>また、越前の正月・小正月行事のうち、「鯖江のおコナイ」および「勝山左義長」について、映像記録を作成しました。</p>																				

<p>・「ふくい民俗芸能群」の認定 個々の祭りや民俗芸能、習俗を次世代に守り伝えるため、その特徴ごとにまとまり(群)として捉えた「ふくい民俗芸能群」への認定を促進し、その価値を顕在化するとともに、県内外へ情報発信することにより、伝統文化の保存・伝承を図ります。</p> <p>〔 民俗芸能群への新規認定数 (平成21年度 10件) 10件 〕</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>個々の民俗芸能等の価値を明らかにするため、ふくい無形民俗文化財保存活用推進会が未指定文化財の群認定を引き続き行いました。</p> <p>また、認定された民俗芸能等については、ホームページ「福井の文化財」においてその由来や概要を紹介するとともに、越前の正月・小正月行事(鯖江のオコナイ、勝山左義長)に関する映像記録作成などの支援を行いました。</p> <p>〔 民俗芸能群 (新規認定 10件) 〕</p> <table border="0"> <tr> <td>①越前の正月・小正月行事</td> <td>⑤厄除け行事・お祓いの芸能</td> </tr> <tr> <td>②若狭の正月・小正月行事</td> <td>⑥港町の祭りと山車</td> </tr> <tr> <td>③ふくいの盆行事</td> <td>⑦舞楽法要・神楽</td> </tr> <tr> <td>④ふくいの農耕習俗</td> <td></td> </tr> </table>	①越前の正月・小正月行事	⑤厄除け行事・お祓いの芸能	②若狭の正月・小正月行事	⑥港町の祭りと山車	③ふくいの盆行事	⑦舞楽法要・神楽	④ふくいの農耕習俗	
①越前の正月・小正月行事	⑤厄除け行事・お祓いの芸能									
②若狭の正月・小正月行事	⑥港町の祭りと山車									
③ふくいの盆行事	⑦舞楽法要・神楽									
④ふくいの農耕習俗										
<p>◇ 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援</p> <p>・第73回国民体育大会の開催に向けた準備 「第73回国民体育大会準備委員会(仮称)」を設置するとともに、市町や競技団体の意見を聞きながら、競技別会場の選定など開催準備を進めます。</p>	実施結果	<p>【成果等】 引き続き実施します。</p> <p>8月30日に「第73回国民体育大会福井県準備委員会」を設置し、10月の常任委員会において、大会開催、会場地市町選定、競技施設整備、競技役員等養成、広報などの基本方針を策定するとともに、「総務企画」、「施設整備」、「競技運営」、「広報・県民活動」の4つの検討会において、会場地市町の選定、競技施設基準の作成、開催地選択競技の選定、広報や県民運動の進め方等について、具体的な検討を行いました。</p>								
<p>・「健民スポーツ運動」の推進 県民スポーツ祭における冬季間開催種目の充実や、総合型地域スポーツクラブでの交流の促進など、年間を通じて県民の誰もがスポーツやエクササイズを生活に取り入れる「健民スポーツ運動」を推進します。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>県民スポーツ祭は、実施競技種目や開催時期の見直し(部門の新設、冬季開催種目の増加等)などにより、参加者数が、約1,500人増加しました。</p> <p>また、総合型地域スポーツクラブは、平成22年度に2市町で2クラブ創設され、平成23年度には県内12市町で20クラブが活動します。</p> <p>〔 県民スポーツ祭参加者数 30,480人 〕</p> <p>〔 総合型地域スポーツクラブ総数 20クラブ 〕</p>								

<p>◇ 日本一の子育て応援システム</p> <p>・「放課後子どもクラブ」への支援 地域の实情に応じて「放課後子どもクラブ」を実施し、子どもの安全・安心で健やかな活動場所を確保します。また、市町に対して、小学校6年生までの希望者全員が入所できるよう空き教室を活用した「放課後子どもクラブ」の新設・拡充を働きかけます。</p> <p>（放課後子どもクラブ実施校区数 平成21年度 203校区中194校区 203校区中203校区（9校区の増））</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>学校の空き教室等を利用した「放課後子どもクラブ」設置を県独自に支援するなど、市町の負担の軽減を図りました。こうした支援の結果、県内全ての小学校区で「放課後子どもクラブ」が実施されました。</p> <p>さらに、平成23年度からは、約9割（約180校区）で6年生までの児童を受け入れる見込みです。</p> <p>（放課後子どもクラブ実施校区数 203校区中203校区（9校区の増））</p>
<p>◇ 安全安心の確保</p> <p>・安全教育の徹底と安全確保活動の支援 教職員等に対する防犯教育講習会の開催や青色灯をつけた自動車を利用した巡回パトロールによる防犯体制および見守り活動の充実など、登下校時を含めた子どもの安全確保活動を支援します。</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>小・中・高校において、より実践的な防犯教育が実施できるよう各学校の安全管理・安全教育責任者や保護者、地域関係団体を対象に防犯教室講習会を開催し、学校・家庭・地域の連携強化に対する意識を向上させました。</p> <p>また、すべての中学校区において、青色灯を付けた自動車による学校周辺や通学路等の巡回指導を実施し、見守り活動の充実に努めました。</p> <p>（主な安全活動支援 ・青色灯自動車による巡回パトロール 74中学校区で実施（週1回））</p>

<p>・公立学校の耐震化の促進</p> <p>学校施設は、児童・生徒の学習の場であり、地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、県内の小・中学校の耐震化を前倒しして進めます。特に、地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高いIs値0.3未満の施設については、改築や大規模改修を行うものを除き、本年度内に完了を目指します。</p> <p>〔耐震補強工事 26棟 (平成21年度 123棟(繰越を含む))〕</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を上回って達成しました。</p> <p>耐震補強工事については、小・中学校施設の耐震化促進を支援するための県独自の補助制度により、市町の負担軽減を図りました。今後とも、市町への働きかけを一層強化し耐震化を促進していきます。</p> <p>〔耐震補強工事 47棟(23年度への繰越を含む)〕</p>
<p>◇ 食育・地産地消の推進</p> <p>・おいしい福井の学校給食の実現</p> <p>学校給食会や農林水産部との連携により、地場産農水産物を活用した食品開発を行い、学校給食に対する子どもたちの興味関心を高めます。</p> <p>また、県内の8共同調理場において、食育ボランティアと栄養教諭・学校栄養職員が連携し、おいしい学校給食の提供や食育活動を行います。</p> <p>〔地場産学校給食の実施校数 289校 (平成21年度 285校) 学校給食が好きな子どもの割合 80.0% (平成21年度 55.6%) 朝食欠食率 0.3% (平成21年度 0.4%)〕</p>	実施結果	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>県内の8共同調理場において、食育ボランティアと栄養教諭・学校栄養職員が連携した学校給食の提供や食育活動を行いました。また、学校給食調理コンテストや児童・生徒が主体的に取り組む食育実践活動の発表会等、児童・生徒や保護者の学校給食への関心を高める活動を行いました。</p> <p>〔地場産学校給食の実施校数 289校 学校給食が好きな子どもの割合 83.1% 朝食欠食率 0.3%〕</p>

4 目標数値の進捗状況

指標名	18年度の現状	19年度の現状	20年度の現状	21年度の現状	22年度の目標	22年度の現状	22年度末までの目標
学級編制基準の見直し	—	(小学1、2年生) 36人以上の学級に非常勤講師配置 (小学5年生) 40人学級 (小学6年生) 36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生) 36人学級	(小学1、2年生) 35人以上の学級に非常勤講師配置 (小学5、6年生) 36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生) 35人学級	(小学1、2年生) 34人以上の学級に非常勤講師配置 (小学5、6年生) 36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生) 34人学級	(小学1、2年生) 33人以上の学級に非常勤講師配置 (小学5、6年生) 36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生) 33人学級	(小学1、2年生) 33人以上の学級に非常勤講師配置 (小学5、6年生) 36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生) 33人学級	(小学1、2年生) 33人以上の学級に非常勤講師配置 (小学5、6年生) 36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生) 33人学級
「福井型コミュニティ・スクール」の実施校数(小中学校) (※)(新元気宣言で目標数値を設定した指標(以下同じ))	133校	全小中学校 (291校)	全小中学校 (289校)	全小中学校 (283校)	全小中学校 (279校)	全小中学校 (279校)	全小中学校 (279校)
学力の向上 県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合	—	小学校 77.3% 中学校 57.1%	小学校 76.9% 中学校 56.5%	小学校 77.2% 中学校 57.8%	小学校 80%以上 中学校 60%以上	小学校 76.8% 中学校 58.3%	小学校 80%以上 中学校 60%以上
英語授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生)	39.5%	43.4%	48%	49%	50%以上	50%	50%以上
小中学校における不登校児童・生徒の割合	(小学校) 0.32% (160人) (中学校) 2.49% (626人)	(小学校) 0.38% (183人) (中学校) 2.64% (665人)	(小学校) 0.32% (153人) (中学校) 2.61% (655人)	(小学校) 0.34% (160人) (中学校) 2.54% (630人)	(小学校) 0.30%以下 (140人以下) (中学校) 2.45%以下 (600人以下)	(小学校) 0.28% (130人) (中学校) 2.45% (582人)	(小学校) 0.30%以下 (140人以下) (中学校) 2.45%以下 (600人以下)
高校生の就職3年後の離職率	42.2%	44.8%	43.7%	40.9%	40%未満	39.4%	40%未満
地場産学校給食の実施校数(※)	244校	245校	271校	285校	289校	289校	すべての学校給食実施校 (289校)
学校給食が好きな子どもの割合	63.4%	61.3%	64.1%	55.6%	80%	83.1%	80%
放課後子どもクラブ実施校区数(※)	184校区	191校区	195校区	195校区 (205校区中)	203校区 (203校区中)	203校区 (203校区中)	全小学校区 (203校区)
県立音楽堂等で第一級の芸術・文化を直接体験する子ども(小・中・高校生)の数	4万6千人/年	5万8千人/年	6万人/年	7.5万人/年	6.5万人/年	6.5万人/年	6.5万人/年
県立図書館の図書貸出冊数	86万1千冊/年	83万5千冊/年	85万6千冊/年	89万4千冊/年	90万冊/年	90万8千冊/年	90万冊/年
日本体育協会が公認する上級指導員、上級コーチ数	91人	85人	88人	93人	120人以上	122人	120人以上
総合型地域スポーツクラブ数	10クラブ	13クラブ	17クラブ	18クラブ	20クラブ	20クラブ	20クラブ

※ 知事のマニフェスト「福井新元気宣言」推進に係る目標の進捗状況

VI 有識者からの意見

○福井大学理事（教育・学生担当）副学長 寺岡英男

1 活動状況について

- (1) 教育委員会の会議開催等の状況については、会議開催 20 回、附議事項 44 件と、例年と変わらぬ着実な活動がなされたことが窺える。
- (2) 公立学校教員採用選考試験の実施状況については、特に 19 年度以降辺りから改善の試みがなされ、良い方向で定着してきていることが窺え、評価できる。
- (3) 研修の実施状況については、指定研修・専門研修とも多様な形態・内容で取組まれていることはわかるが、取組み全体のねらい、改善事項や特徴などの説明が必要である。

2 教育関連施策の取組み実績について

- (1) 「ていねいな教育」、「きたえる教育」、「文化・スポーツの振興」の 3 つの柱に、29 項目の重要施策を目標に、意図的・計画的に取組み、全体として実績をあげてきていることについては、高く評価したい。
- (2) ただ、評価の方法として、例えば「小中学生の学力向上の推進」が「目標達成にはいたりませんでした」とあるように、数値目標の達成が評価の基準となっている。これについては、施策の内容にもよるので一概には言えないが、単に数値目標だけでなく、それも含めた総合的な評価の方法を検討する必要がある。
- (3) 「目標を一部達成しませんでした」という評価の、「世界に通じる知的探究心の育成」についても、同様であり、ここに挙げられているような「スーパーサイエンスフォーラム」、「ふくい理数グランプリ」、「全国規模のコンテスト」への参加だけでなく、大学や企業、民間団体等との連携についても目標には挙げているのだから、例えば福井大学との共同による「生命科学クラブ」と「未来の科学者養成講座」の取組など、多様な取り組みの実績を評価する必要があると思われる。
- (4) 昨年度指摘させていただいた、報告書の枠組みの見直しによる、より総合的な活動評価になるような改善については、福井大学教職大学院との連携の取組みなどが加えられた点で、一部改善がなされたものの、引き続き検討をお願いしたい。

福井県教育委員会が、「ていねいな教育」、「きたえる教育」、「文化・スポーツの振興」の3つを柱に掲げ、それに基づく29の施策の実現に真摯に努められていることに敬意を表したい。

29の施策のうち、目標未達成が1つあったが、それは「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合であった。県学力調査での数値で、小学校が80%の目標に対して76.8%、中学校が60%の目標に対して58.3%であった。急速に変化する現代社会においては、生涯学び続けることが必要であるが、そのためには、基礎・基本的な知識・技能を確実に身に付けておく必要がある。小・中学校の教育は重要であり、まさしく「ていねいな教育」が求められる。福井県の高い学力を支えている教職員は意欲・能力とも高いと思われるが、教職員が少しでも児童・生徒に細かな指導の時間が持てるように、一層の配慮をお願いしたい。

福井県の県民性として、消極的な人が多いといわれる。激しい国際競争の時代において、これは決してプラスに働かない。そのような県民性を打破するためにも、児童・生徒に自信を付けさせるような取り組み、一步先へ進んだ学習の体験等に積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。「ふくいサイエンス寺子屋」や「ふくい理数グランプリ」の開催、大学や企業等と連携した研修機会の提供等多岐にわたるが、そのようなことを通じて、児童・生徒を「きたえて」いただきたい。

「きたえる」ことでさらにお願いしたいことは、児童・生徒の英語のコミュニケーション能力の向上である。世界でも特異な言葉といわれる日本語を話しているからか、流暢に英語を話せる日本人が、近隣アジア諸国と比べても少ないように感じられる。国際社会で生き抜くためには、英会話力は必須である。福井県は、ALTの配置においても先進県であり、大学入試センター試験のリスニングでも全国上位であることは承知しているが、今後一層英語でのコミュニケーション能力の向上に配慮していただきたい。

「文化・スポーツの振興」の1つとして、児童・生徒が第一級の芸術・文化に触れる機会の充実に努めていることも大いに評価できる。直接体験した子どもの数が目標の65,000人を上回ったとのことであるが、一層多くの児童・生徒が本物の芸術・文化に触れられるように努めていただきたい。それとともに、我々大人が福井県内でも優れた芸術が鑑賞できるように、優れた公演の招請やそのための補助、PR活動にも力を入れていただきたい。また、少子化に伴う生徒数の減少等により、各学校の部活動の中には部員不足に苦しんでいるものがあると聞く。部活動が、生徒の人間としての成長に大きな影響を与えることは間違いない。難しい点が多々あるとは思いますが、部活動の振興に一層の支援をしていただきたい。

